

竹村ほまれ 後援会だより

2012/01/11 No003

後援会責任者 林高文 83-0341

竹村ほまれ連絡先 Fax: 81-4371

携帯: 090-6545-2254

HP: <http://homare.ina-ka.com/>

ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/yanagiran>

新年おめでとうございます

昨年は震災をはじめ、厳しい話題が多かった中で人の「絆」があらためて見直された一年でした。そんな中、新人ながらも一生懸命議会活動に取り組むことが出来ました。

これもひとえに皆様方のお力添えと感謝しております。

新しい年にあたり、さらに人の絆を深め、市民生活の安心、安全と生活向上が図られる社会をめざして、がんばってまいります。

本年も引き続きご支援ご鞭撻の程、宜しくお願いします。

二〇一二年一月

竹村 ほまれ

昨年の市議会を取り上げた

三つの課題が実現・前進へ

昨年4月に市議会に送っていただいてから、3回の定例議会を務めさせていただきました。すべての議会で一般質問にたち、市政の前進と市民生活の向上の立場で発言してまいりました。

時節柄特に安心・安全の地域づくりに、自分として何が出来るのか！を市民の声を聞きながら問い続けた一年でした。

ここにその一部を報告します。

(竹村)

①放射能測定器を直ちに

購入し、市民に安心を

6月市議会では、東電福島第一原発の事故にともなう放射能汚染が、長野県内にも広がっている現実から駒ヶ根市の対応を求めました。

竹村ほまれ議員の質問

放射能の汚染は農産物や、大気・水・土壌などに広がり、県内各地の下水道汚泥焼却灰から放射性セシウムが検出されています。

上伊那では駒ヶ根市と飯島町を除くすべての市町村で、放射能測定器を購入（発注）し、運用や測定結果の公表をすすめています。

駒ヶ根市でも独自に放射能測定器を購入して、定点測定を

行い「防災の備え」と測定データの公表による市民の「安心」に應えるべきです。

特に未来を担う子ども達の集う学校・保育所や公共施設、雨水が集中するホットスポットの定点測定を重視すべきです。

杉本市長の答弁

(現状は) 以前と比べて問題が無い放射能の数値だと思っています。伊南行政本部に携帯型

辰年に想いも新たに(天竜大橋)



を所有しているのです、市で購入する予定はありません。

(今後は) 市民が安心感をもつて生活出来るために、精密な測定の必要があれば購入について考えていきます。

やっとですが

実現しました

杉本市長はこの議会では消極的な考えを示しましたが、市民世論もあって12月議会では竹村議員に対し「機器は11月に納入され、市役所、中沢支所、東伊那支所を定点として、毎週水曜日に定期的な測定を始めた。現状は問題が無い数値です。今後全ての学校や保育園でも測定していく」と答えました。

裏面に続く



③旧新宮川発電所の再建、検討を

12月議会では、地球温暖化や福島第一原発の事故による放射能汚染の広がり状況も踏まえて、駒ヶ根市における循環型社会の構築と、自然エネルギー資源活用について、質問しました。

竹村ほまれ議員の質問

中沢区落合で三六災害まで稼働していた「新宮川発電所」は、今から90年前に中沢村営として36kwでスタートし、その後150kwまで増強さ

れて中沢の明りを灯し続けてきました。今でも1500mに及ぶ送水路は農業用水に活用されており、水圧鉄管も錆びつつも往時のまま残っています。当時の人々の苦勞と先見性に畏敬の念を抱く一方、この時代に何とか再建出来ないものかと考えます。

杉本市長の答弁

駒ヶ根市の豊かな水資源は、地域で一番と思っており、企業誘致などでも有利な条件となっています。

質問の新宮川発電所の地点は、駒ヶ根市の新エネルギー推進協議会の予備調査対象に指定しており、有力な個所です。現在民間の事業者からも、この場所における設置に関する相談もあります。

市としても具体的にできれば協力する方向で検討します。

②子どもの医療費

無料化の拡大は今すぐに

少子化対策が社会的に大きな課題となっており、子育て世代が安心して医療を受けられることが、市民の切実な願いとなっています。竹村議員は6月議会と9月議会に続けて、子ども医療費無料化拡大を求めました。

竹村ほまれ議員の質問

駒ヶ根市の子ども医療費は、入院が中学3年まで無料であるのに、通院は小学校3年までとなっています。上伊那の他の市町村は入院・通院とも中学3年生まで、村によっては高校3年生まで無料化になっている。駒ヶ根市の施策が一番遅れています。

子育て世代が安心して医療を受けられることが、若者の定住対策とも連動して駒ヶ根市の活性化に大きな役割を果たすものであり、一日も早い無料化の前進を求めます。

杉本市長の答弁

駒ヶ根市は子育て支援策を幅広く展開していますが、市民の間からも子どもの医療費無

料化の拡大を求める声もあり、今後財政状況を見ながら対応していきたい。

24年度から通院も 中学3年生まで拡大 することをめざします。

市長は、12月議会の答弁や市長選挙の公約でも、2期目の抱負とし、中学校3年生までの子ども医療費無料化の拡大を明言しています。

年度頭初からの実現を期待します。



新宮川発電所跡地